

『独立社外取締役』 富永誠一著（全国社外取締役ネットワーク 事務局長）
商事法務 2835 円

【評者】八城 政基（株式会社新生銀行 代表執行役社長）

コーポレート・ガバナンス確立の鍵となる「社外取締役」の実践的解説書

書名や出版社から、やや堅苦しいイメージが思い浮かぶかもしれないが、日本企業の経営者が取り組むべき重要な経営課題の一つである「コーポレート・ガバナンス」に関する実践的なビジネス啓蒙書である。

コーポレート・ガバナンスを語るときには社外取締役の存在は欠かせないが、最近では官公庁、証券取引所を含めて社外取締役の独立性の問題が議論されるようになってきた。本書が「独立社外取締役」という書名で発刊されることは時機を得たものと言える。

私自身、社外取締役を務めた経験もあるし、現在も新生銀行（委員会設置会社）の経営者として社外取締役から監督を受ける立場にあるが、社外取締役の存在というものは企業を健全に経営していく上で極めて意義のあるものである。日本企業の間では、取締役と経営者が混同されているケースがあり、「社外取締役に企業経営がわかるか」という人が依然として存在する。社外取締役は経営者から独立した立場から客観的にものを見ることができし、さまざまな業界で豊富な経験、知識を積み重ねてきた人に経営を見てもらうことは、経営者にとっても大いに意味がある。

しかし、社外取締役はただ招いたからといって機能するわけではない。社外取締役に機能してもらうためには、経営者や事務局のサポートがなければいけない。経営者は重要な経営情報を示して意見を求めたり、都合のよくないことこそ話す姿勢が求められる。また、事務局も経営者の明確な指示のもとで必要な情報を提示したり、資料を事前に出さなければいけない。社外取締役は経営者や事務局のサポートで機能させるものなのである。

本書には、コーポレート・ガバナンスを推進する非営利団体「全国社外取締役ネットワーク」の研究会で現役の社外取締役が議論を重ねた貴重な内容が多く盛り込まれている。さらに、これから社外取締役を招く企業にとって未知の経験となる、社外取締役の招聘、招聘後の取締役会の運営、社外取締役のサポートといった内容も説かれている。また、実際の社外取締役やその候補者にとっても、社外取締役がどのようなことを考え取締役に参画しているかを知ることにもできる。こうした社外取締役に関する網羅的な情報が含まれている内容になっている。

常々、企業の目的は「長期的に安定した利益を持続的に出すこと」だと考えている。本書は、そのために必要なインフラとしてのコーポレート・ガバナンスの確立、独立社外取締役との関係について、独立社外取締役の実態に関する情報が充実しているという他書に類を見ないものとなっている。全体を通じて平易な文章で書かれており、独立社外取締役の議論をめぐる全体像を知る上でも役立つ、一読の価値ある書籍である。

株式会社新生銀行
代表執行役社長

八城政基